

No.123
2016
Winter

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 学長メッセージ・新成人代表「誓いの言葉」・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業に係る連携協力調印・就職懇談会/企業セミナー・EV車ナンバープレート取得・ETロボコン全国大会・学生チャレンジプロジェクト事業一般公開・サークル活動(バレーボール部・硬式野球部・アイススケート部)
- p4-5 土木建築工学科公開講座・ロボット教室「空飛ぶペンギン」・ロボットコンテスト・彩才祭・ビブリオバトル決勝戦・自動車整備コンテスト・知財活用アイデア全国大会・平成28年度新役員・学生受賞・学園祭表彰・規範意識JUMP研修会
- p6-7 東北工学教育協会年次大会・アジア原子力研修生報告会・防災訓練・叙勲・高大連携推進協議会・マレーシア研修団(JENESYS)・女子高生のための進路選択支援フォーラム・入試日程・平成28年度海外研修募集・春のオープンキャンパス案内・行事予定

p8-9 カラーページ 「八戸工大二高美術コース誌上作品展」

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 工大一祭・復興支援コンサート、第35回三部展+1、県高総文祭、県秋季大会結果、宿泊研修・修学旅行・校内研修、進路状況報告、模擬投票、燕嶋神社再建募金

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 進路状況中間報告、国際交流(中国・マレーシア)、県高総文祭(弁論部門・囲碁部門)、ボランティア(燕嶋神社再建募金・K-O運動)、創立40周年記念講演会、第30回美術コース作品展

さくら幼稚園

- p14-15 はっぴようかい、かたぐるま、ようちえんってこんなところ、とらんぼりん

- p16 理事会報告

Mobile & iPhone & Android
モバイルサイトへアクセス▶▶▶



新年を迎えて



学長 藤田 成隆

輝かしい新年を迎え、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

昨年、日本の2名の研究者がノーベル賞を受賞し、21世紀に入ってから自然科学3部門（物理学賞、化学賞、生理学・医学賞）の受賞

者数は、1位のアメリカに次ぐ15名になりました。このことは、日本人のオンリーワンの科学技術を生み出す力がいかに大きいか示しています。昨年試乗する機会があった超電導リニアには、世界で初めて超電導技術が用いられ、振動の少ない時速500kmを体験してきました。また、初飛行した国産旅客機MRJは、従来の同型ジェット機と比較して燃費が20%以上も優れており、世界最高水準の燃費性能を持っています。その実現のために日本の新技術が投入されており、卒業生もその部品の設計・製造・加工にかかわっています。

さて、科学技術イノベーション総合戦略2015が、昨年6月に閣議決定されました。イノベーションを生み出す環境整備の中では、大学改革、人材育成、学術研究の強化などが掲げられ、また社会的課題の解決に向けた取組の中では、ICTや水素等蓄エネルギー技術等の活用、地球環境予測、医療機器開発等、次世代インフラの構築、高度道路交通システムの実現、高付加価値製品・サービス提供システムの構築、複合材料開発などが重要な課題として記載されています。

社会が変革し経済が成長していくためには、新しい価値を創造できる力、すなわち、広い意味での課題解決力が求められます。本学においては、学士力、社会人基礎力はもちろんのこと、全国の大学生の弱点となっている課題解決力を一層強化するべくカリキュラム改革を行っているところです。今後も地域のリーダーとなりうる人材を輩出していく所存ですので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

島下大さんと鳥谷部華恋さん

新成人を代表し「誓いの言葉」を述べる

1月10日、八戸市東体育館で「平成28年八戸市成人式」が開催され、新成人を代表して本学土木建築工学科2年の島下大さん（八戸工高）と感性デザイン学科2年の鳥谷部華恋さん（同）が、「新成人としての喜びをかみ締めるとともに、責任の重さを痛感しています。未来のために成長を忘れず、すばらしい歴史と文化を持つ八戸を発展させていきます。」と力強い声で誓いの言葉を述べた。



八戸市の新成人は、平成7年4月2日から平成8年4月1日に生まれた2,216人（平成27年7月現在）。当日は小雪の舞う寒い日だったが、新成人らは色とりどりの晴れ着や真新しいスーツに身を包んで式に臨み、大人としての第一歩を踏み出した。

連携・協力を係る協定書調印 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

学生の地元への就職を増やし、地方創生を実現しようと文部科学省が主導している「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」が今年度創設され、この事業に青森県内の高等教育機関（9大学1高専）、青森県、県内4市（八戸市・青森市・弘前市・むつ市）が連携協力して取り組む「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」が採択された。

11月26日、青森国際ホテルにおいて関係機関による協定書の締結式が行われ、本学から藤田成隆学長が出席した。締結式では、三村青森県知事の挨拶の後各機関の長が協定書に署名。協定締結後事業を推進するための組織「青森COC+推進機構」が設立され、趣意書の確認と規約が了承された。引き続き総会が催され、事業の目的である雇用創出や人材定着の施策について活発な意見交換が行われた。事業の実施期間は、2015年から2019年度までの5年間で、今後学生の地域就職率の向上と雇用創出等を目指す。



「就職懇談会・企業セミナー」の開催について

10月24日と11月3日に本学の多目的ホールと大会議室を会場に、「就職懇談会・企業セミナー」を開催した。

今回の「就職懇談会・企業セミナー」は、①就職活動を継続している卒業・修了予定者に対する就職支援の一環として採用活動継続中の企業とのマッチングを図ること、および②就職活動開始前の学部3年生と修士1年生に企業研究・業界研究の機会を提供して進路選択の一助とすることの二つを目的として計画し、実施したものである。企画にあたっては、「就職懇談会・企業セミナー」への参加が授業に影響しないよう土曜日と祝日の開催とした。2日間で117社の企業および団体に協力していただき、参加学生は延べ260名であった。

就職活動中の学生達はリクルートスーツに身を包み、採用活動継続中の企業ブースを訪問して採用担当者との面談に臨んでいた。また、就職活動開始前の学生も参加し、企業や業界の担当者の説明に熱心に耳を傾け、3月から本格化する就職活動に向けた情報収集を行っていた。



黄色のEV車「ビート」公道へ

改造した軽自動車にナンバープレートを取得・「奨励賞」受賞



機械情報技術学科自動車工学コースの学生らがEV車（電気自動車）に改造した軽自動車に、10月21日、軽自動車検査協会青森事務所八戸支所でナンバープレートの交付を受けた。

ナンバープレートを取得した軽自動車の車種は、ホンダのオープンカー「ビート」。車体の色は黄色である。

今回のナンバープレート取得は、同学科の学生らが2013年から取り組んできたもので、最初の2年間はEV化への改造を、2015年は厳しくなった保安基準に適合させるための部品の修正や、基準に適合することを証明する膨大な書類の作成を行った。3年の歳月を費やし、幾つもの高いハードルを乗り越え、晴れて公道を走行するためのナンバープレートの取得に至った。

また、学生らはこの経験を12月5日仙台市で開催された「社会人基礎力育成グランプリ2016北海道・東北地区予選大会」で発表し、「奨励賞」を受賞した。

ETロボコン2015チャンピオンシップ大会に出場

11月18日、横浜市のパシフィコ横浜で開催された組込みシステム技術協会が主催するロボットコンテスト「ETロボコン2015チャンピオンシップ大会」に、システム情報工学科山口広行准教授の研究チーム「ヒット&ラン」が出場した。



このコンテストは、走行競技と設計モデル審査の総合評価で争われるもので、タイムを競うデベロッパー部門（プライマリークラス・アドバンストクラス）と設計モデルを審査するイノベーター部門に分かれて行われた。全国346チームの中から9つの地区大会で上位の成績を収めた43チームが参戦した。システム開発力が問われるハイレベルなデベロッパー部門のアドバンストクラスに出場した本学チームは、東北地区大会で優勝して活躍が期待されたが、難度が高くなったコースに苦戦し無念のリタイアとなった。

第47回東北バレーボールリーグ戦個人賞受賞

サーブ賞

第3位 酒井 紀誌（写真右）
（電気電子システム学科2年／八戸工大一高）

ベストスコアラー賞

第3位 松澤 祥希
（電気電子システム学科2年／弘前工高）



「学生チャレンジプロジェクト事業」一般公開

12月19日・20日、八戸市中心街の「チーノはちのへ」において、「平成27年度学生チャレンジプロジェクト事業」の一般公開が行われた。

この事業は、学生のグループが自由な発想で身近な課題に取り組み、その成果を社会に還元することを目的に大学が活動費用を助成しているもので、学外で活動を発表するのは今回が初めて。一般公開では、今年度採択された8つの事業のこれまでの進捗状況について、展示・実演・演示などを行った。事業の一つである「HVバギープロジェクト」（自動車部）では、ガソリンエンジンを電気モーターに改造したバギーを会場に運び、学生から説明を受けた来場者が試乗して乗り心地を確かめていた。

学生達は、この一般公開によって得られた手応えや貴重な意見を、今後のプロジェクト推進に活かしていく。



硬式野球部が一部リーグへ復帰 北東北大学野球2部リーグ全勝優勝

10月11日、2015年度北東北大学野球秋季入替戦の第3戦が、東北町北総合運動公園野球場で行われ、本学硬式野球部が一部昇格を決めた。

入替戦の相手は、1部リーグ6位の青森中央学院大学。初戦は3-1で勝利したが、第2戦は0-1の完封負け。崖っぷちの本学チームは、第3戦を3-2の接戦で制し、2勝1敗で4季ぶりとなる一部リーグへの復帰を果たした。一部リーグは、富士大学、ノースアジア大学、青森大学、八戸学院大学、岩手大学の強豪ぞろい。これからプロ野球選手を輩出している上位チームとの厳しい試合が予想されるが、10月16日に開催された北東北大学野球大館トーナメント大会の1回戦では、1部優勝の富士大学を5-4で下した。今後の熱い戦いに期待したい。

木村真人さん全日本選手権大会出場 アイススケート部フィギュア部門

12月25日～27日、札幌市の真駒内セキスイハイムアイスアリーナを会場に行われた第84回全日本フィギュアスケート選手権大会に本学アイススケート部フィギュア部門の木村真人さん（感性デザイン学科4年／八戸工大一高）が、3回目の出場を果たした。

この大会は、日本の代表選手が一堂に会し日本一を決定する大会で、テレビ放映やネット配信され多くのマスコミと観客が注目する国内最大級の大会である。

木村さんは、シーズン序盤に脚を骨折して予選通過が危ぶまれたものの、持ち前の精神力で練習不足を補い、学生競技生活の締めくりに相応しい大舞台で有終の美を飾った。



土木建築工学科公開講座に参加して



11月21日、土木建築工学科の公開講座「国指定有形登録文化財元貸座敷新むつ旅館（旧新むつ楼）の暮らしと建築的特徴について」が行われました。小中野町の東北地方に唯一現存する元貸座敷新むつ旅館で、建物の特徴やそこの暮らしなどについて月館敏栄先

生が解説しました。女将さんのお話も聞け、30名程の参加者大変好評でした。

講演会での私の役目は、新むつ旅館について説明することでした。そのため前日まで資料で勉強し、当日は皆さんの前でなんとか説明することができました。当時の資料や実際に使われていた物などが残っているのはとても珍しく貴重で、歴史を感じることができました。普段はこのような歴史や文化に触れる機会がないので、いい経験でした。地域の文化を多くの人に伝えていくことが大切だと思いました。

建築デザイン研究会 大島 宏昌
(土木建築工学科2年/南部工高)

ロボット教室「空飛ぶペンギン」

機械情報技術学科の藤澤隆介講師が実施しているロボット教室「空飛ぶペンギン」(ラジコン式ペンギン型飛行船)が10月20日に行われ、メカトロニクス研究会のメンバー10名で三沢市の上久保小学校に行ってきました。このロボット教室は、県内の小中学校や青森県立三沢航空科学館などで実施しているものです。

「空飛ぶペンギン」は、写真のようにヘリウムガスを用いて浮力を発生させサーボモータを動力源とする翼が空気を掻いて進むロボットです。はじめに翼などの機体の構造やラジコンシステムについて説明しました。ペンギンのフライトでは、軽量化の方法やどのように進むのかを説明しましたが、子供達は大きな機体が浮いていることに



夢中になっていました。ブースを設けて他のロボットも紹介しましたが、専門用語を用いない説明は大変でした。これからもこうした教室に参加し、将来を担う子供達に科学の面白さやものづくりの楽しさを伝えていきたいと思っています。

メカトロニクス研究会 佐藤 僚太
(機械情報技術学科3年/宮城・石巻工高)

第18回ロボットコンテスト開催

12月22日、本学のメディアセンターにおいて「ロボットコンテスト」が開催された。

このコンテストは、機械情報技術学科3年の授業の一環で行われており、学生らが製作したロボットの性能を試合形式で競いあうものである。今年の課題は、円柱ブロックを所定の場所に運ぶロボットとそれを積み上げる2台のロボットを製作し、積み上げた高さ、運んだ数、置くまでのスピードを競うのは昨年と同じだったが、積み上げるブロックの高さが1mにもなる20個に増やされた。

学生達は、8つのチームに分かれて

ロボットを製作し、試合当日は4チームによる予選リーグと決勝トーナメントが行われた。今年も白熱した試合が繰り広げられ、優勝は安定した動きを見せ20個すべてを3回積み上げたB-4チームが輝いた。会場は終始応援の声や笑い声であふれ、試合終了後講評と表彰式が行われた。



平成27年度彩才祭を終えて



11月14日・15日、文化会が主催する「彩才祭」を開催しました。

今年は、14団体が参加。会場のショッピングセンター「ラピア」2階ホールは多くの来場者で賑わい、興味深そうに各団体のブースを見て回っていました。アンケートには「次回もぜひ来たい」「子供も楽しめ、大学の活動がよくわかった」などの感想が多く寄せられました。今回は、八戸市内だけでなく近隣の階上町や三沢市にもポスターを貼りにでかけました。準備をする中で様々な改善点も見つかり、次回はポスター以外の宣伝方法を工夫し来場者をもっと増やしていこうと思っています。更に進化した「彩才祭」になるよう、新役員と一緒に頑張っていきたいと思っています。

文化会会長 我妻 しのぶ
(感性デザイン学科3年/むつ工高)

ビブリオバトル決勝戦に出場

11月14日、「第2回ビブリオバトル in 八戸」の決勝戦が、デーリー東北新聞社で開催され、本学から今田香葉子さん(感性デザイン学科2年/黒石商高)が参戦した。



この催しは、本好きの市民が気に入った本を持ち寄り、その面白さについて5分の持ち時間で書評した後、観客が一番読みたくなった「チャンプ本」を選ぶというゲーム感覚の書評合戦である。今回の決勝戦には、予選会を勝ち抜いた高校の部、大学生の部、一般の部A・Bの代表4人で争われた。前回のチャンプ本に、電気電子システム学科4年の田畑圭一さん(七戸高)が紹介した小説が選ばれたこともあり、今田さんは、「きみはボラリス」(三浦しおん著)の魅力を熱く語ったが、今回のチャンプ本には一般の部代表の詩の本が選ばれた。

自動車整備コンテスト 上位独占の快挙

10月24日、宮城県仙台市で開催された「第30回自動車整備コンテスト」(主催(公社)自動車技術会東北支部学生自動車研究会)で、自動車工学コースの3・4年生を中心とする8チームが参加し、4大学19チームのうち上位6位までを独占した。このコンテストは2人1組で3級自動車整備士程度の学科テスト、故障診断、液体判別、測定・安全運転診断の学科と実技を行い、その合計点で順位を競うものである。(以下、1位から6位までの入賞者)

- 1位: 井澤 芳樹 (3年/山形明正高)
高橋 将志 (3年/秋田・大曲工高)
- 2位: 今野 優作 (4年/秋田・湯沢北高)
左館 壘 (4年/八戸工大一高)
- 3位: 佐々木優丞 (4年/宮城・仙台育英学園)
浜端 智裕 (4年/岩手・種市高)
- 4位: 石井裕一郎 (3年・高卒課程認定)
田代 永樹 (3年/八戸工大一高)
- 5位: 秋山 航 (4年/光星学院高)
水田 圭祐 (4年/岩手・盛岡中央高)
- 6位: 藤原 拓也 (2年/岩手・紫波総合)
田代 優太 (3年/八戸工高)



受賞おめでとうございます

(独)日本学生支援機構
平成27年度「優秀学生顕彰」



文化・芸術分野
「奨励賞」
飴田 亮太
(土木建築工学科
4年/三沢高)

「第50回地盤工学研究発表会」



論文名:「防潮堤基礎地盤のジオセルを用いた洗堀対策」

優秀論文発表者賞
葛西 康世
(土木建築工学科
4年/弘前工高)

知財活用アイデア全国 大会(東日本大会)

学修支援室での活動を通して知り合った仲間でチームを組み、11月28日東京千代田区麹町のベルサール半蔵門で開催された「知財活用アイデア全国大会(東日本大会)」に参加しました。

この大会は、大企業が持つ休眠特許を活用し、学生が地域で展開可能な事業モデルを構築するというもので、東日本の23大学(青森県内3大学含む)が参加しました。本学からの参加は2度目で、電気電子システム学科、機械情報技術学科、バイオ環境工学科の4年生2名、2年生3名の計5名で参加しました。この大会のメインである事業提案は本学で学ぶ分野とは全く別の分野で、アイデアをまとめるのにディスカッションの時間がとれず苦労しました。私達が提案したアイデアは、メガネのフレームを塗料を使わないで発色させる「肌に優しいメガネ」。残念ながら私達を含め青森県勢のアイデアはすべて落選でしたが、今回のコンテストでは他大学の発表から学ぶべき点が多く、大学では経験できないことへの挑戦はスキルアップのいい機会になりました。

田畑 圭一

(電気電子システム学科4年/七戸高) 写真左端



第43回学園祭表彰

学園祭の活性化に貢献した団体に贈られる「第43回学園祭表彰」が決定し、12月2日、表彰式が行われた。

◇学 長 賞

学科研究展示部門

川本研究室(電気電子システム学科)

課外活動展示部門

茶道愛好会

◇学務部長賞

学科研究展示部門

伊藤研究室(システム情報工学科)

藤岡研究室(システム情報工学科)

信山研究室(電気電子システム学科)

課外活動展示部門

合唱部・吹奏楽部・食品研究会

平成28年度 学友会・体育会・文化会新役員



学友会委員長

木村 郁也

(機械情報技術学科
3年/弘前中央高)



体育会会長

本間 隼人

(電子電気・システム工学科2年/
秋田・西仙北高)



文化会会長

金子 瑛洋

(電子電気・システム工学科2年/
山形・南陽高)

規範意識 JUMP研修会に参加

11月7日、「規範意識 JUMP 研修会」が青森公立大学で開催され、本学から楢山匠さん(機械情報技術学科3年/八戸工高・写真左)が参加した。

この研修会は、青森県警察が実施している各種犯罪抑止活動の一環で行われたもので、青森県警察本部長の挨拶に続き、「ネットトラブルの歌」の披露、中学生による事例報告、JUMPチームや少年サポートボランティアの代表らによるパネルディスカッション(テーマ「なくそういじめ私たちにできること」)が行われた。楢山さんは、本学の「大学生防犯ボランティア」のメンバーで、ディスカッションのパネラーとして自らの活動について意見を述べた。



東北工学教育協会第63回年次大会開催



11月16日、東北工学教育協会第63回年次大会が、八戸グランドホテルを会場に開催された。今大会は本学が世話役校を担当し、関係者約50名が参加した。

はじめに、会長の東北大学大学院工学研究科長滝澤博胤教授と本学藤田成隆学長による挨拶があり、来賓の小林眞八戸市長から祝辞（代読）が述べられた。引き続き文部科学省高等教育局専門教育課企画官の関百合子氏による特別講演「インターンシップに向けた施策について」と太田口和久本学特任教授による講演「学びと教えの相乗効果～大学教育再生加速プログラム・八戸工業大学取組キックオフ～」が行われた。次いで本学社会連携学術推進室次長の石山俊彦教授をコーディネーターに「工学教育における地方創生と人材育成の役割」をテーマにパネル討議が行われ、参加者らは5名のパネラーから提供された興味深い話題に熱心に耳を傾け、会場は活発な意見交換の場となった。

アジア原子力研修生報告会

文部科学省では、アジア諸国の原子力に関わる研究者を日本へ招聘し、国内の原子力研究機関や大学にて原子力研究開発利用に関する研修・技術実習を通してアジア諸国の原子力の安全性向上に寄与することを目的としたアジア協力プログラムを実施しており、本学が私立大学で唯一の受入機関となっている。平成27年度は、3名が9月30日から本学で研修を行い、12月14日に研修成果の報告会がメディアセンターで開催された。研修生のMr. DO Duy Khiem（ベトナム原子力研究所ホーチミン原子力技術センター）、Ms. SABLAY Jeana Lee, Pusta（フィリピン原子力研究所原子力規制部科学研



究スペシャリスト）、Ms. SANGAROON Siriyaporn（タイ・マハラサカーム大学理学部）の3名は、チューターの本学教員のもとで実施した実験実習や県内のエネルギー供給基地の視察などについて自国の状況と比較しながら報告を行った。

平成27年度防災訓練



12月9日、全学一斉の防災訓練が、八戸東消防署の協力により実施された。

はじめに、地震発生を想定した避難訓練が行われ、緊急地震速報の模擬放送を合図に訓練がスタートした。学生達は、教職員の誘導で教室、研究室、廊下などから一斉に指定された屋外の避難場所に避難。災害に対する心構えや訓練の大切さなどについて指導を受けた。また、並行して事務系と技術系の職員による火災発生を想定した避難訓練（救助袋による脱出）、消火訓練（消火栓による放水・消火器操作）、AED操作、発電機操作訓練が行われた。今回は学生ホール風除室での濃煙対応訓練も加わり、職員らは真剣な表情で訓練に取り組んでいた。

秋の叙勲 豊田淳一名誉教授 「瑞宝中綬章」受章

11月3日、平成27年度秋の叙勲・褒賞受章者が発表され、本学名誉教授豊田淳一先生が、永年に亘って教育研究に貢献されたご功績により、「瑞宝中綬章」を受章されました。



豊田名誉教授は、昭和38年3月、東京大学大学院数物系研究科電気工学専攻博士課程を修了。平成10年4月から平成19年3月まで、本学で大学院及び工学部教授として教育研究をはじめ地域の発展に尽力されました。専門は、電力システム工学。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

第13回高大連携推進協議会



12月11日、第13回八戸工業大学高大連携推進協議会が開催され、高校の校長らと関係者50余名が出席した。この協議会は、青森県内及び岩手県北の高等学校との連携推進を目的に平成13年に設置されたもので、

これまで時代の変化に伴う様々な教育に関わる課題をテーマに協議が重ねられてきた。

今回は、藤田成隆学長の開会挨拶に続き、本学が取り組んでいる「文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）の進捗状況」について、太田口和久特任教授による概要報告があった。次に岩手県立大野高等学校の下町壽男校長が、主に前任校の盛岡第三高等学校で実施したアクティブ・ラーニングについて講演され、新たな学習指導方法や評価方法等について種々意見が交わされた。その後、本学のアクティブ・ラーニングの講義の一つである感性デザイン学科のビジュアルデザイン演習（横溝賢准教授担当）の講義風景を見学し終了した。

マレーシア研修団が来学

青少年交流事業「JENESYS2.0」

外務省の招へいプログラム青少年交流事業「JENESYS2.0」の一環で日本を訪れている研修団一行のうち、マレーシアからの研修団67名が11月13日に本学を訪れた。

この事業は、アジア大洋州の大学生などを日本に招き日本の社会・文化・歴史に理解と関心を深めてもらい、一人一人が日本の魅力の積極的な発信者となることを目指して実施しているもので、日本各地で歴史・文化関連施設の視察、地方自治体への表敬訪問、同年代の日本人学生との交流等が行われている。

初めに本学の学生が八戸市と八戸市の文化について英語で紹介し、その後研究施設等を見学した。また、歓迎セレモニー



では、茶道愛好会の学生が抹茶と和菓子でもてなし、研修団が民族舞踊を披露するなど和やかに交流が図られた。

女子高校生のための進路選択支援フォーラム開催



11月7日、八戸グランドホテルを会場に「女子高生のための進路選択支援フォーラム」が開催され、参加した女子高校生ら60名が将来への夢を膨らませた。このフォーラムは、女子高校生の進学・就職などの進路選択の際に女性講師の経験談と参加者の質問などを役立ててもらおうという趣旨で、今回初めて催されたものである。

はじめに、本学橋本都副学長の挨拶があり、国の審議会委員や科学テレビ番組の監修なども務める東京大学の太島まり教授による特別講演が行われた。太島教授は、医療に役立っているバイオ・マイクロ流体工学の研究のほ

か学生生活や留学経験、家庭生活なども紹介し、女子高校生らはメモを取りながら耳を傾けていた。次の本学バイオ環境工学科の鮎川恵理准教授、八戸市民病院臨床検査科の松長夢子さん、本学大学院の卒業生で建築会社に勤務する秋山由衣さんによるパネルトークでは、それぞれ進路を決める際のエピソードや今の生活などをユーモア交えて披露。鮎川准教授は、南極や北極での調査研究活動なども紹介した。終了後のアンケートには「とても有意義だった。参考になった。」という回答が多数を占めた。



平成28年度海外研修参加者募集

(卒業の単位として認定)

英語研修

- ・研修期間
平成29年2月下旬(予定)
- ・研修先
南クイーンズランド大学
(オーストラリア・トゥーンバ市)
- 問合せ先 斎藤 明宏(講師)
TEL 0178-25-8051

中国語研修

- ・研修期間
平成28年8月下旬(予定)
- ・研修先
瀋陽工業大学(中国・遼寧省瀋陽市)
- 問合せ先 渡辺 武秀(教授)
TEL 0178-25-8124

春のオープンキャンパス開催!

3月12日(土)、春のオープンキャンパスを開催します。在学生達が案内するキャンパスツアー、大学周辺見学ツアー、サークル紹介、学科見学、体験等のほか、職員による保護者向けガイダンス、個別相談コーナー等、在学生主体で実施します。高校卒業後の進路を考えている1・2年生は勿論、まだ進学先の決定していない3年生も参加することができます。保護者の方も参加できますので、是非、お越しください。



平成28年度入試日程

工学部・感性デザイン学部 問合せ先 入試部入試課 0178-25-8000(直通)

選抜方法		願書受付期間	試験日
専門高校・総合学科入試		2016年1月4日(月)～1月25日(月)	2016年2月4日(木)
一般入試	前期※	2016年1月4日(月)～1月25日(月)	2016年2月4日(木)
	後期	2016年3月1日(火)～3月15日(火) 必着	2016年3月22日(火)
センター利用入試	前期※	2016年1月4日(月)～1月29日(金)	2016年1月16日(土)・17日(日)の大学入試センター試験。本学の個別試験は課さない。
	中期※	2016年2月1日(月)～2月19日(金)	
	後期	2016年3月1日(火)～3月22日(火) 必着	
AO入試	クール	エントリーカード受付期間	面談日
	第4クール	2016年2月1日(月)～2月5日(金)	2016年2月12日(金)
	第5クール	2016年3月1日(火)～3月12日(土)	2016年3月17日(木)

※学業特待生選考試験を兼ねる

2月～4月 行事予定

2月

- 4日(木) 専門高校・総合学科入試
一般入試(前期)
- 12日(金) AO入試第4クール
- 22日(月) 大学院入試(二次)
～23日(火)

3月

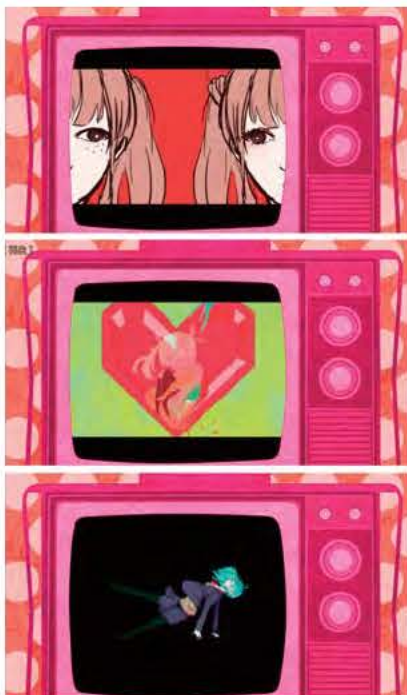
- 10日(木) 第3回就職懇談会
～11日(金)
- 12日(土) 春のオープンキャンパス
- 17日(木) AO入試第5クール
- 18日(金) 学位記授与式
- 22日(火) 一般入試(後期)
- 31日(木) 後期終了・学年終了

4月

- 1日(金) 学年開始・前期開始
- 5日(火) 平成28年度入学式
- 6日(水) 前期授業開始
ガイダンス～7日(木)
- 7日(木) 開講試験(1学年)



展示風景



「コマーシャル」映像／1分30秒
金田 文恵（長者中）



「ハンドメイドアクセサリ（企画）」CG／B1／レジ
田村 優衣（長者中）



「ばっつんロングガール」アクリル／S10×4
四戸 菜々子（木ノ下中）



「君は僕を忘れるから」油彩／F80
川崎 瑞穂（階上中）



八戸工大二高 美術コース 誌上作品展



「夕編み」アクリル／F50
原子 彩香（天間館中）



「瞬間」油彩／F60
富田 真帆（三沢第一中）



「ハーゲンダッツ」油彩／F50
佐藤 仁美（泊中）



「帰郷」アクリル／F50
原子 彩香（天間館中）



「シベリアンハスキー（写真前）／グローネンダール」立体
児玉 悠輔（三本木中）



「マダラ蝶」油彩／F50
早乙女 知聖（八戸第一中）



「FTISLAND」アクリル／S50
古田 みのの（三沢第一中）



「Lee hong」アクリル／S50
古田 みのの（三沢第一中）



「自分」油彩／F8×9
伊保内 光季（根城中）



「エノグアツメ（ゲーム企画）」CG／B1
田代 匠（江陽中）



「星の音」油彩／F50
速水 薫（鮫中）



「自画像」油彩／F60
三浦 颯士（明治中）

第46回工大一祭

～ 無限の可能性 僕らの笑顔 ～

10月31日・11月1日、第46回工大一祭が開催された。穏やかな天候に恵まれ、昨年よりも多い1,631名のお客様を迎えることができた。今年も文化部・科・コース・学年別による展示や運動部の模擬店などで大いに賑わいを見せた。

授業の集大成として披露した3年生女子による創作ダンスは、練習の成果を余すところなく発揮。恒例となった女装大会・カラオケ大会・吹奏楽部コンサート・部活動による大演芸大会などのステージ発表にも工夫が見られ、昨年とは一味違う面白さで盛り上がった。また、昨年から新たに設けられたキッズコーナーでは、プラスチック板マスコット作成やくじ引きなどで、お世話になっている地域の皆さんと触れ合うことが出来た。



元気いっぱい 震災復興支援コンサート



吹奏楽部による“元気いっぱい復興支援コンサート”が、11月7日に福島県相馬市で、翌8日は宮城県気仙沼市と岩手県陸前高田市で行われた。どの会場でもアンコールが続き、演奏側と聴衆側が一つになり、大盛況のコンサートであった。東日本大震災からもうすぐ5年目になろうとしている。未だに仮設住宅住まいで、生活への不安がある被災者の皆さんの力強く生きている姿に励まされ、勇気もらったコンサートでもあった。

第36回

青森県高等学校総合文化祭

10月10日・11日、第36回青森県高等学校総合文化祭が、「無限の可能性花ひらけ北の大地に満開に」のスローガンの下開催され、写真部門に出場した佐々木里菜さん（3年建築・江陽中）が優秀賞、宮崎理央さん（3年建築・大館中）と佐々木勇大君（3年建築・江陽中）が優良賞を受賞した。将棋部門では、大橋佑輝君（2年機械・鮫中）がBクラスで優勝し、東北地区将棋新人大会の出場権を獲得した。



第35回 三部展+1

11月14日・15日、八戸ポータルミュージアム「はっち」のシアターにおいて、写真部・美術部・放送部の3つに、今回はJRC部とパソコン部が参加し「三部展+1」が開催された。

写真部は県高総文祭写真部門で優秀賞と優良賞を受賞した作品、美術部はアクリル画、放送部は県高総体で優勝した運動部生へのインタビュー映像などを紹介し、+1のJRC部は防災に関する展示、パソコン部は3Dプリンタによる立体作品を展示した。

会場を訪れた人々は、作品一つ一つの前で足を止め興味深げに見入っていた。



青森県秋季大会結果

男子 6種目優勝

- ◆ 登山(9/11~13 於 岩木山)
- ◆ ソフトテニス(9/18~20 於 岩木山総合公園テニスコート)
- ◆ 自転車競技(10/9~11 於 八戸自転車競技場 他)
- ◆ ウエイトリフティング(10/31~11/1 於 八戸工業高校)
- ◆ レスリング(11/7・8 於 野辺地西高校)
- ◆ ボウリング(11/7・8 於 ゆりの木ボウル)

女子 2種目優勝

- ◆ 水泳(9/19・20 於 平川市屋内プール)
- ◆ ゴルフ(10/9 於 青森カントリークラブ)

1 学年 絆を深めた宿泊研修

12月2日～4日、国立岩手山青少年交流の家で宿泊研修を実施した。研修の目的は、勤労の尊さの体得、進路決定に向けた意識付け、集団生活の中の自主性・協調性の獲得、仲間や教師との親睦を深めること。生徒達は、講師からトラブルに巻き込まれないための携帯電話の使い方や共同作業を行う際の仕事の進め方などを学んだ。



2 学年 平和祈念への旅

12月1日～5日、平和について学ぶ長崎・関西方面への修学旅行を実施した。新幹線、飛行機、船舶などの交通機関を利用した旅は、一つ一つが学びの場だった。原爆被災地である長崎では、恒久の平和を願い千羽鶴と平和祈念署名布を献納した。この旅行での体験をこれからの高校生活に活かし更なる成長を期待したい。



3 学年 一歩社会人へ

12月2日～4日、卒業を目前にした3年生は、社会人としての心構えを学ぶための研修を行った。今回は、八戸市の歴史・文化・産業や同窓会組織の役割など、生徒達に将来役立つ盛りだくさんの内容だった。これを機に郷土への関心を更に深めてもらい、社会人として必要な知識を積極的に獲得してもらいたい。



進路状況報告

今年は、去年と同様建設業を中心に県内外を問わず求人数が多く、県内が約300社、県外が約500社であった。特に県外が好調で、現在も大手企業の募集が続いている。また、製造業だけではなく技術者など様々な職種を希望する生徒が多かったが、ほとんどの生徒が内定した。進学は、普段の取り組みはもちろんだが、夏・冬休み中の合宿勉強会の成果が実り、八戸工業大学をはじめ国公立大学、有名私立大学、各種専門学校に多数合格した。今年の特徴は、医療系の大学や専門学校の合格者が多かったことである。また、本校初の防衛大学校合格者も輩出した。今後も生徒達を全力でサポートしていきたい。 進路指導部長 村井 茂敏(教諭)

防衛大学校合格

野球部を引退し、バットをペンにチェンジ。それからは、机に向かって問題と格闘する日々でした。そして今、防衛大学校の門に到達することができました。これからは、日本の安全を考え精進していきたいと思っています。



渡邊 駿介 君
(3年普通・白山台中)

主な進路先 (2016年1月現在)

【就職】〈県内〉エム・ピー・エム・オペレーション(株)、旭光通信サービス(株)八戸事業所、(株)高橋製作所、(株)菅原ディーゼル、(株)八戸パークホテル、高周波鍛造(株)、合同酒精(株)酵素医薬品工場、寺下建設(株)、大平洋金属(株)、東京鉄鋼(株)八戸工場、東北容器工業(株)、八戸港湾運送(株)、八戸製錬(株)八戸製錬所、北辰工業(株) 他〈県外〉日野自動車(株)、中部飼料(株)、新日鐵住金(株)鹿島製鐵所、新日鐵住金(株)君津製鐵所、三興製鋼(株)、共立タイル(株)、(株)トップコミュニケーションプロダクツ、リゾートトラスト(株)、ヘライ建設(株)、UDトラックス(株)、(株)JFEウイング、(株)前田道路、(株)第一ビルメンテナンス 他

〈公務員〉陸上自衛隊(3名)、海上自衛隊(4名)

【進学】〈国公立大学〉弘前大学、青森県立保健大学、北海道教育大学函館校〈私立大学〉八戸工業大学、岩手医科大学(薬学)、東京女子医科大学(看護)、日本体育大学、国士館大学、東海大学、東洋大学、日本大学、千葉科学大学、中央学院大学、流通経済大学、環太平洋大学、つくば国際大学、ものづくり大学、関西大学、札幌大学、福岡大学、法政大学、日本赤十字秋田看護大学 他
〈文部科学省管轄外の大学校〉防衛大学校〈専門学校〉八戸看護専門学校、トラベル・ホテル・プライダル専門学校、見陽看護栄養専門学校、HAL東京、八戸調理師専門学校、ヘアーカレッジ木浪学園、岩手県立農業大学校、仙台コミュニケーション専門学校、北日本ハイテクカルテックキングカレッジ、八戸工科学院、東北メディカル学院 他

生徒会役員選挙で模擬投票

公職選挙法の改正(平成28年6月19日施行)により、選挙権年齢が満20歳から満18歳に引き下げられるのを受け、12月8日、模擬投票に見立てた生徒会役員の選挙を実施した。投票場を再現するために、八戸市選挙管理委員会から投票箱



と記載台を借用した。受付で投票用紙を手にした生徒達は、緊張した面持ちで記載台に向かい、本物の選挙さながらの厳粛な雰囲気の中で次々と投票箱に1票を投じていた。

蕪嶋神社再建募金に協力

11月24日、生徒会長の渡邊駿介君(3年普通・白山台中)と生徒会議長の太田俊君(3年普通・大館中)が社殿を焼失した蕪嶋神社を訪ね、再建に役立てて欲しいと全校で集めた募金85,624円を官司に手渡した。



足腰を鍛えるために神社の階段でトレーニングに励んだ硬式野球部の渡邊君と太田君は、「お世話になった神社の再建に少しでも役にたてて欲しい」と全校生の気持ちを伝えた。

進路状況中間報告

～推薦・AO入試、就職内定状況～

防衛大学校一次合格5名で過去最高!!

平成28年度の推薦・AO入試結果が出そろった。今年度は、国公立大学に29名合格し、そのうち青森県立保健大学が一昨年に引き続き4学科全てに合格。私立大学も八戸工業大学12名合格をはじめ、明治大学、法政大学、東京薬科大学、同志社大学、関西大学などの難関大学に見事合格を果たした。また、防衛大学校の前期一般試験で、青森県内の一次試験合格者13名のうち5名が本校生徒（人文・社会科学専攻1名、理工学専攻4名）と健闘している。これからセンター試験・一般試験に臨む生徒たちも多数おり、追い込み時期を迎えている。一般試験の結果は3月以降に確定する。

【国公立大学29名合格】

釧路公立大学3名、北海道教育大学釧路校、北見工業大学、室蘭工業大学、北海道教育大学函館校5名、はこだて未来大学、青森県立保健大学4名、青森公立大学3名、弘前大学、岩手大学2名、秋田大学、秋田公立美術大学、山形大学4名、長岡造形大学

【国公立短期大学3名合格】

山形県立米沢女子短期大学2名、岩手県立大学宮古短期大学

【私立大学66名合格】

八戸工業大学12名、弘前医療福祉大学、岩手医科大学3名、宮城学院女子大学2名、仙台白百合女子大学2名、東北薬科大学、東北学院大学4名、東北芸術工科大学、日赤秋田看護大学、国際医療福祉大学、東京電機大学、亀田医療大学、日本大学3名、明治大学、駒澤大学、東京薬科大学、法政大学2名、東洋大学2名、二松學舎大学、専修大学2名、武蔵野美術大学3名、女子美術大学3名、同志社大学、関西大学 他

【私立短期大学】

函館短期大学、東北女子短期大学、盛岡短期大学部、仙台青葉学院短期大学2名、武蔵丘短期大学 他

【専門学校・各種学校】

八戸工科学院3名、アレック情報ビジネス学院3名、八戸理容美容専門学校、国際医療福祉専門学校、仙台医療秘書福祉専門学校、日本外国語専門学校 他

【就 職】

宮城県警、警視庁、自衛官候補生2名、ヤマト運輸、(株)第一ホーム、(株)ホンダ四輪販売八戸、(株)ビジネスサービス八戸支店、日本原燃分析(株)、(株)プリンスホテル、(株)世界堂アール 他

【医療系各種学校】

青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科・看護学科・理学療法学科・栄養学科、八戸看護専門学校看護学科、弘前医療福祉大学保健学部医療技術学科(言語聴覚)、日赤秋田看護大学看護学部看護学科、東洋公衆衛生学院診療放射線技術学科、国際医療福祉専門学校救命救急学科、東北文化学園専門学校視能訓練士学科、亀田医療技術専門学校看護学科、日本大学医学部付属看護専門学校 他

就職も頑張っています。

今年度の本校の就職内定率は、昨年度同様高い数値で推移している。本校では就職希望者に対し、簿記検定や情報処理検定や長期休業中の就職対策ゼミなどで支援強化を図ってきた。(株)プリンスホテルに内定した川端美希さん(情報ビジネスコース/八戸第一中)、ヤマト運輸(株)に内定した大渡早葵さん(カレッジコース/階上中)は、早期に就職問題の添削や面接対策に取り組み、部活動を通して得た協調性等を武器に見事難関を突破した。

広がれ！世界との絆 ～国際交流～

中国の高校生ら二高を訪問

JENESYS2.0のプログラムによる中国高校生訪日団第4陣が来日し、11月6日、中国広西チワン族自治区の高校生28名と教員2名が本校を訪れた。

第二体育館で行われた歓迎式には全校生徒が参加し、吹奏楽部による両国国歌の演奏後ウエルカムコンサートで「世界に一つだけの花」をジェスチャー付きで合唱する交流行事などを行った。その後、中国高校生は4つのグループに分かれて本校生徒と一緒に英語の交流授業に参加し、英語で互いの文化や高校生活の様子などの情報交換を行

った。午後は、華道部生徒の指導で生け花を体験したり、美術コースでは本校生徒と向き合ってお互いの顔をデッサンしあうなど、笑顔の絶えない交流となった。

中国の高校生達は、「大変楽しく日本の文化を体験できた。日本の高校生はフレンドリーでかわいい。」と感想を述べ、互いに写真を撮り合ったりしながら別れを惜しんでいた。



マレーシアの学生と交流

11月13日、八戸ポータルミュージアム「はっち」で行われた「JENESYS2015マレーシア学生との交流事業」に1学年ACクラス35名が参加した。混合グループで「はっち」内を見学した後、八戸小唄の歌や踊りを一緒に体験した。その後の交流会で「日本の大使」役として、日本や八戸の文化について英語で紹介した。参加した生徒の「意思疎通できるか心配だったが、マレーシアの方々が理解しようとしてくれたおかげで話せた」などの感想から、充実した交流だったことをうかがわせた。



弁論部門最優秀賞

10月10日、アピオ青森イベントホールで行われた青森県総合文化祭弁論部門に木村琴音さん（美術コース1年／大館中）が出場した。木村さんは「傍観者の覚悟」と題し、独特の視点を持った明快かつ堂々たる弁論で、県内から集まった8人の弁士の中から第一位である最優秀賞に輝いた。この受賞により、来年度の第40回全国高等学校総合文化祭広島大会弁論部門に青森県代表として出場することが決まった。



写真提供：デーリー東北新聞社

囲碁部門女子Aクラス優勝

10月10日・11日、リンクステーションホール青森において、青森県高等学校総合文化祭囲碁部門大会が行われ、磯崎綾華さん（カレッジコース2年／種市中）が女子Aクラスで優勝し、東北大会への出場権を獲得した。磯崎さんは11月6日・7日に宮城県作並温泉で開催された東北囲碁選手権大会で青森県女子団体の主将を務めた。更なる活躍が期待されている。

創立40周年記念事業

楠田枝里子氏講演会

10月21日、「可能性の扉を開く」と題して、司会者やエッセイストとして活躍している楠田枝里子さんによる講演会を開催した。楠田さんは、影響を受けた3人の先生との出会いやエピソード、新人アナウンサー時代の失敗談、現在楠田氏が参加しているナスカの地上絵を保存する活動の裏話などに触れながら、「何事もダメだと決めつけないで。積極的に飛び込んでみると新たな扉が開ける。経験はいつか大きく花開く。」と生徒達にエールを送った。



ボランティア

燕嶋神社再建へ 全校で募金活動を実施

焼失した燕嶋神社の一日も早い再建を願い、生徒会役員とガイドボランティアに参加している鮫ボラスタッフを中心に募金活動を行った。11月14日、22日の2日間、八戸市江陽のショッピングセンターラピアで寄付を募る呼びかけを行い、買い物に来ていた方々から温かい励ましの言葉と共に多くの寄付金が寄せられた。

本校は、3年前から「鮫・燕嶋高校生ボランティアガイド」の活動を行っており、生徒達も「日頃お世話になっている地域のために恩返しをしたい」との強い気持ちから、今回の活動となった。2日間で集まった寄付金に全校生徒から集めた募金額を加えた225,376円が、デーリー東北新聞社を通じて燕嶋神社に寄付される。

K-O運動 仮設住宅でスタンプづくり

12月20日、恒例となっている岩手県陸前高田市の仮設住宅を訪ねるボランティア活動「K(仮設)-O(ゼロ)運動」が行われた。この活動は、今回で8回目となる。

今回の訪問では、二高祭での寄付金と生徒からの募金をもとに、仮設住宅の方々と一緒にクリスマスカードや年賀状に使えるスタンプ作りを行った。子どもや高齢者など多くの方が参加し、近況を報告しあったり他愛のないおしゃべりしながら、楽しく取り組むことができた。スタンプが出来上がると、生徒達は住民の方々と住所を交換し、スタンプを使った年賀状を送り合うことを約束していた。



創立40周年記念

第30回美術コース作品展

12月11日～13日、第30回美術コース作品展が、八戸ポータルミュージアム「はっち」のシアターとギャラリーで開催され、美術コースの生徒105名が制作した180点の作品を披露した。シアターには、卒業制作を中心に100号の油絵、デザイン、イラスト、アニメーション、発泡スチロール製の動物モニュメントなど、各自の専攻分野の作品が展示され、来場者の目を楽しませた。

また、今回は本校40周年記念と30回目を迎えた節目の作品展であるため、第一線で活躍している卒業生による賛助作品も展示され、より高度な技術と高い完成度で作品展に花を添えた。第1回目からの歴代ポスターを展示したスペースも好評で、3日間の来場者数は1,000名を超えた。



はっぴょうかい



12月10日と11日の2日間に分かれ発表会が開かれた。今年は、2日目の開演前にステージの幕が閉まらなくなるアクシデントが発生。子どもたちに影響が出ないか心配したが、落ち着いて発表してくれた。

演目に合わせて作った衣装に身を包んだ子どもたちのなりきり度に、たくさんの拍手が送られた。

最後のアトラクションで、ステージ奥に置かれた大きな卵からサンタさんが登場した。

びっくりしてしばらく呆然としている子もいたが、嬉しそうにサンタさんに歌や手話など披露した。

最後にサンタさんから一人一人プレゼントをもらい、発表会は無事終了。

両日も家族の方々に見守られ、和やかな発表会だった。

幼稚園が好きな孫

平成24年6月上旬、孫は3歳になってすぐ入園しました。初めての登園日、「慣らし保育もなく大丈夫だろうか。」と不安顔の大人をよそにニコニコ顔でバス停へ。「俺の孫のことだから大丈夫だろう！」そう言いながらも、帰ってくる頃には外をうろうろ。「じいやあー。ただいまあ!!」の声と笑顔にひと安心したことを今でもはっきりと覚えています。あっという間に年月が過ぎ、いちご組からお世話になった孫はあと数ヶ月で

卒園です。「華望、幼稚園が好きだから学校行かない。ランドセル背負って幼稚園に行きたあひ。」と涙を流していた孫の姿から、先生方に沢山の愛情を注いでもらったんだなあ実感しました。

娘が過ごした幼稚園で、孫が一度も嫌がることなく登園し楽しい園生活を送ることができたのも、娘の話に耳を傾けて下さり孫の成長を共に見守り指導して下さい先生方のおかげです。ありがとうございました。

(ゆり組 坂本華望ちゃんのお祖父さん)
宮古 悦啓さん



ようちえんってこんなところ

～年長ちびっ子防災広場～



「うわあーゆれるー!!」 (地震体験コーナー)

～焼き芋会～



「ホッカホカのお芋、おいしい〜♡」

～お店屋さんごっこ～



「いらっしゃいませ〜♪」

とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組
10月27日(火)

穏やかな天候に恵まれた焼き芋会。バスに乗って八戸工大へ出かけた。みんな揃って「えーい」と灰の中へ芋を投げ入れたが、残念ながら届かない。おじさんたちに手伝ってもらった。芋が焼けるまで大学の公園内を散策し、どんぐり拾いをした。「芋が焼けたよー」の声に足早に集まってシートでスタンバイ、熱々の芋を受け取るとすぐにかぶりついた。園に戻ると給食も完食しびっくり。初めての焼き芋体験に、子どもたちは終始笑顔だった。



「パズルだ〜いすき♡」

年少組 11月9日(月)

給食の食べこぼしで汚れた床を拭き掃除することにした。雨のため外で遊べないので、子どもたちも喜んで取り組んでいた。力を入れてごしごし拭かなければ汚れがとれないことを話し、「雑巾が真っ黒になるように頑張ろう!」と話すと、次々に「黒くなった。見て見て!」と報告にきた。最後に膝をつかずに雑巾がけをさせると、皆上手にできた。腕でしっかり体を支えなければ顔を床にぶつけてしまうことも理解していた。時には一緒に掃除をするのもいいのかなと思った。

年中組 11月30日(月)

園庭で遊び、中へ入る前に男女に分かれ鬼ごっこをした。女の子全員が鬼になり、男の子が全員捕まった。中に入ることにした。男の子は走るのが速い子が多く、なかなか捕まえることができなかった。最後の二人に残ったA君が、ぎりぎりでタッチされると「最後まで残ってたかった!」と泣き出した。周りからは「速かったよ」「すごいね!」と褒められても悔しいようだった。「次は一番になれるように頑張ろう!」「次があるよ」と励まされ、少し納得したようだった。



「ネコにへ〜んしん」

年長組 11月2日(月)

待ちに待ったお店屋さんごっこ。開店前にお店の品物を見て回り、これもほしいあれもほしいと品定めをしていた。「お店屋さんごっこ開始です」の放送でお店が開店すると、どの店もあっという間に売り切れてしまった。売り手の子もたちが圧倒されるほどの速さだった。弟や妹に「でんでん太鼓を買った」など、家族のために買っている子が多かった。お店屋さんごっこが終わり、ばんばんになった袋を嬉しそうに抱えている子どもたちの顔は、とても満足気だった。



理事会

学校法人八戸工業大学は、下記のとおり理事会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認した。

◇10月30日 理事会

- ・「個人番号及び特定個人情報の取扱い」に関する諸規則等の整備に関する件
- ・「東日本大震災被災学生に係る学費等減免特別支援規程施行細則」改正に関する件
- ・八戸工業大学第一高等学校隣接地の買い受けに関する件

◇11月20日 理事会

- ・学校法人八戸工業大学「給与規程」改正に関する件
- ・八戸工業大学大学院「学則」変更に関する件

◇12月18日 理事会

- ・「職員の採用」に関する件

表紙・裏表紙

八戸工業大学第二高等学校

「JENESYS2.0」2015年度中国高校生訪日団交流会・交流授業